

「川尻小学校の棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

指宿市立川尻小学校

2 学年・人数

3年生から6年生（計31名）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和2年3月30日（月）～31日（火）

川尻ふれあい交流館

※令和2年4月22日（水）～ 校区との合同運動会発表前の練習
川尻小体育館

(2) 発表の日時・場所

※令和2年5月24日（日） 川尻小・校区合同運動会

※印については、今年度新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止した。校区と合同運動会は、内容を大幅に見直し、学校単独で11月14日（土）に実施した。

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

(1) 名称

棒踊り（川尻）（ぼうおどり かわしり）

(2) 由来

棒踊りは、中国の棒術の流れをくんだ兵法の体型からあみだされた郷土芸能で、島津日新公が庶民の忠誠心を培うために踊らせたものと云われ、吉田城をたたえたもので、後は山で前は大川と歌ったものと云う。

開聞には、下仙田・川尻・上野・脇塩屋などで古くから踊られ、六尺棒をもつての渡り合いや六尺棒と三尺棒・薙刀・鎌・錫杖などのいろいろな武具を使い一糸乱れない団結のもとに勇壮活発に踊り、見物客は思わず手に汗を握ったのである。

踊りの要領は、各地区でやや異なっている。

（「開聞町郷土誌」平成6年12月1日発行）

(3) 構成等

川尻では、戦時中一時途絶えていたが、終戦後の昭和26年に青年団が復活させ、その後郷土芸能として保存会を結成し受け継がれている。

古くから漁師町として栄えた川尻ならではの、非常にテンポの速い立ち回り、活気に溢れた踊りが特徴である。

（指宿文化遺産手帖～郷土芸能編～平成31年度 指宿まるごと博物館実行委員会）

5 保存会や地域との連携の具体

地域の「川尻棒踊り保存会」の全面的な支援の下，春季休業中に2年生以上を対象に2～3日川尻ふれあい交流館にて練習を行っている。これにより，児童を中心に地域ぐるみで棒踊りを伝承していく体制が整っている。

6 文化財伝承・活用の取組を工夫した点

これまで別々に開催されていた運動会を校区との合同で実施するようにした。今回で7回目の実施予定であった。合同運動会の中で，子供たちが棒踊りを発表することで，保存会をはじめ，地域の方々にも喜んでもらえている。今後も継続して地域と連携して棒踊りを伝承していけるよう体制を整えていきたい。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等） ※令和元年度の写真を掲載



合同運動会での発表



川尻マルシェでの披露

8 参加児童・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

※今年度は，発表の場がなかったため，感想や意見について記述ができません。